

国際居住年記念事業 平成 30 年度「国際居住年記念賞」の受賞者について

国際居住年記念賞は、主として開発途上国等における居住環境問題の改善に貢献された団体に対し、1988年の第一回授賞以来、主として海外の団体を中心として授賞してまいりましたが、平成 24 年度からは国内の NGO 等団体へ授賞することといたしました。

居住環境の更なる向上と草の根的国際協力活動の推進と発展に資するため、平成 30 年度「国際居住年記念賞」は 5 団体の応募者の中から、国際居住年記念事業運営委員会（委員長：小林重敬氏横浜国立大学名誉教授）において、以下の団体が選考され、授与することが決定いたしました。授与式は第 71 回通常総会(令和元年 6 月 21 日)の開催に先立ち、行いました。

◎国際居住年記念賞受賞者

特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会

<https://tewotunagukai.com/>

受賞者の活動概要は以下のとおりです。

当団体は、1987(昭和 62)年に留学生(当時)ラフマン氏と元代表の大木氏が中心となり、「バングラデシュに小学校をつくる会」を設立し、バングラデシュ・カラムディ村に小学校を建てるための募金活動を行ったのがはじまりです。

1989(平成元)年に「ジャパニ小学校」の完成とともに、同村の教育を支援し続けようと「バングラデシュと手をつなぐ会」が新たに発足されました。(2004(平成 16)年に特定非営利活動法人として認証された。)

同村の NGO「シヨンダニ・シヨンスタ」と協力して、教育支援では、「ジャパニ小学校」の建設とその後の運営支援、学校へ行けない子どものために奨学金制度の実施、就学に必要な費用を得るための支援として、仔牛の奨学金プロジェクトの実施し、「シヨンダニ・スクール」(小・中・高校)の建設と運営など、そして医療支援では、妊婦健診や出産、一般診療を行う「母子保健センター」の建設と運営、ソーシャルワーカーの巡回健診、同村から遠い村にも拠点を置き、定期的に出張診療(サテライト・クリニック)を行う等医療設備の充実や緊急患者対応のための救急車の配備などを行っています。また、生活に必要な収入が得られるよう支援する、肉牛貸し出しプロジェクト、女性を対象にした足踏みミシンの職業訓練なども行っています。

代表の二ノ坂保喜氏は、福岡市で「にのさかやすよしにのさかクリニック」を開業されており、地域の在宅医療を支えておられます。